

持続可能な社会インフラの実現に向けた水・環境ソリューション

Optimal Solutions for Water and Environmental Systems

巻頭言

上下水道事業の持続的な経営に向けた取り組み

Making Efforts to Ensure Sustainability of Water Supply and Sewerage Businesses



滝沢 智
TAKIZAWA Satoshi

上下水道事業の持続的な経営に重要なのは、将来にわたって安定で良質な上下水道サービスを提供できることです。上下水道事業は、水処理施設や管路などのインフラ施設、それを運営・管理し必要な更新を行うための人材、及び事業を運営するための財務の三つの要素によって支えられています。しかし、我が国では、水インフラ施設の老朽化が進むとともに、上下水道事業に携わる職員数が大幅に削減されており、人口減少や一人当たりの水使用量の減少から上下水道の料金収入及び使用料収入は減少傾向にあります。このように、上下水道事業の経営を支える三つの要素について、その全てが悪化し事業経営が困難に直面しています。このことから、近年では上下水道事業に携わる人や専門家だけでなく、一般の人々の間にも、将来の上下水道事業の持続的な経営に対する危機感が浸透しつつあります。

このような環境の変化の中でも経営を維持していくには、施設の老朽化、人材の不足、財務の悪化が相互に関連していることを理解し、それぞれの課題への対応策を考え、実施していくことが求められています。広域化と官民連携を組み合わせた上下水道事業経営の改革は、施設運用の効率化や、人材の確保、財務基盤の強化に結び付く方策です。広域化による施設のダウンサイジング^(注1)を実施し、拠点となる施設に最新の技術を取り入れて更新することが、将来の安定的な上下水道サービスの提供にもつながるでしょう。

一方で、現在の我が国は、少子・高齢化を背景に生活スタイルが大きく変わっています。将来のライフスタイルが上下水道事業に及ぼす影響を見越した事業経営を考えることも必要でしょう。今、世界中で情報技術の進歩により社会経済の仕組みそのものが変化しています。このような情報技術革命を、上下水道事業に有効に取り入れていくことができるかどうか、これからの上下水道事業の持続的な経営に大きな影響を及ぼすように思います。スマートメーターを利用した水需要の正確な把握や、上下水道施設の運転管理の自動化、施設の老朽化・劣化診断など、よりスマートな上下水道事業の経営に向けて、新しいアイデア創出や取り組みを進めていきたいと思います。

(注1) 一つのインフラ施設が、従来に比べてより広い地域を受け持つことによって、全体としてダウンサイジングを図る手法。

東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 都市水システム研究室 教授、工博
Professor, Urban Water Systems Laboratory, Department of Urban Engineering, The University of Tokyo